

岩倉市議会 議長 様

# 復命書

平成 30 年度の岩倉市議会総務・産業建設常任委員会の行政視察での調査を次頁以降の通り復命する。

平成 30 年度 岩倉市議会 総務・産業建設常任委員会

平成 30 年 10 月 24 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

<<デマンド交通事業について>> 「埼玉県志木市」

ご対応いただいた皆様

福生市議会 議会事務局長	今野 喜明 様
--------------	---------

志木市役所 都市計画課主幹	竹田秀樹 様	都市計画課主査	新宅修 様
---------------	--------	---------	-------

ほか議会事務局の皆様

#### 調査項目

<<デマンド交通事業について>>

人口、面積、大都市近郊が岩倉市と似ている埼玉県志木市のデマンド事業を視察した。

3年サイクルの「まちづくり35」という実行計画の中に「市民の足の確保」という項目があり、市民意識調査を行った結果、新たな交通手段へのニーズがあることが確認されました。その結果、プロジェクトチームを編成し、検討を重ねた。

「乗合方式」と「補助方式」について検討した結果

1. 「乗合方式」を採用した先行自治体で乗合方式での利用がほとんどされていない
2. 「乗合方式」ではデマンド運行システムや車両の準備などイニシャルコストがかかり、もし、実証実験の結果によりデマンド交通を実施しない場合は、すべてが無駄な出費となる。
3. 「補助方式」の場合は、利用が少なければ、市の持ち出しも少ない。
4. 「補助方式」の場合、市域が狭いため、1回の運行でも高額になることはない。

以上により、タクシー代補助方式のデマンド交通事業が実証実験を行い、平成 28 年 4 月から本格運行を開始しております。

	埼玉県志木市	岩倉市
人 口	76,320 人	48,040 人
面 積	9.05 平方キロメートル	10.47 平方キロメートル

運航方式、利用実績は以下の通り

	埼玉県志木市	岩倉市
利用対象者	・ 65 歳以上の方 ・ 障害者等 ・ 要介護認定者 ・ 妊婦 ・ 未就学児	・ 65 歳以上の方 ・ 障害者 ・ 運転免許証返納者 ・ 妊婦 ・ 就学前児童
乗降場所の数	390 ヲ所	107 ヲ所
方式	タクシー代補助方式	借り上げ車両配車方式
利用料金	タクシー代金が 1,000 円未満の時は 300 円	1 回 300 円

	1,000 円～1,500 円は 500 円 1,500 円以上は 1,000 円	
登録者数	8,680 人 (29 年度)	1,957 人 (30 年 9 月)
乗車人員	48,448 人	6,373 人
運行日時	月曜から土曜 8:30～17:00	月曜から金曜 8:30～17:00

<所感>

デマンド交通事業が開始されて5年が経過しました。議会報告会や意見交換会を行っても、デマンド交通に対するご要望が出る時がある。課題として乗合方式で運行しているが乗合率が低いということです。このような状況を踏まえ、今年度、デマンド交通を含めた公共交通のあり方を考える調査業務が委託されている。

この志木市のデマンド交通を岩倉市と比較してみると、

乗降場所は志木市が 390 か所。岩倉市が 107 か所。(志木市は岩倉市の約 3.6 倍)

利用登録者は志木市が 8,680 人。岩倉市が 1,957 人。(志木市は岩倉市の約 4.4 倍)

乗車人員は志木市が 48,448 人。岩倉市が 6,373 人となっている。(志木市は岩倉市の約 7.6 倍) 岩倉市よりも高い利用がなされていた。

より良いデマンド事業に向けて参考になる方式であると考え。(文責：櫻井)

平成 30 年 10 月 25 日 午前 9 時から午前 11 時まで

<<指定管理者による市民農園運営について>> 「神奈川県伊勢原市」

ご対応いただいた皆様

伊勢原市議会 産業建設常任委員会 委員長	小山 博正 様
-------------------------	---------

伊勢原市役所 農地利用担当部長	松浦宏聡 様	農業振興課長	熊沢信一 様
議会事務局長	岡留一司 様	ほか議会事務局の皆様	

<市民農園現地視察> 指定管理者

株) アグリメディア 事業企画部主任	岡田英昭 様
--------------------	--------

#### 調査項目

<<指定管理者による市民農園運営について>>

優良農地を確保するために基盤整備が行われたが、地権者の高齢化に伴い耕作が難しくなり市民農園として利用してほしいとの要望が伊勢原市にあった。市民からも「野菜を作りたい」という要望があり、地域活性化、遊休農地解消、農業への理解を深めるものとして、平成 23 年 4 月に市民農園を開設されている。

その後、平成 28 年に指定管理に移行。市民農園を指定管理とした理由は、民間事業者のフットワークの軽さやノウハウを活かした住民サービスの向上や管理運営費の削減、管理・運営に要する業務や人件費の削減を期待したからである。管理・運営費については、指定管理者が市民農園の運営による収入からあてる契約を交わしているため、市からの支出が最小限になっている。これも指定管理方式のメリットである。

たしかに、利用実績をお聞きしたところ、指定管理前は 4 割程度の利用率だったものが、7 割にあがったとのこと。

現状では、市民農園に対する需要は満たされていると考えていらっしゃいます。今後は指定管理者によるレジャー、観光施設としてさらに発展していくような運営体制が望まれるとの見解でありました

#### <現地視察>

実際に市民農園の現地を訪問させていただいた。農機具や肥料などもすべて完備され、手ぶらできて作業できる環境であった。営農経験豊富な現地係員もいて、営農指導や利用者の相談にも乗っていただける体制であった。

岩倉市では当てはまらないが、ヤギが飼育されており、バーベキュー施設が完備されている。ここから単なる市民農園にとどまることなく、観光施設として発展していくきっかけが読み取れた。

現地係員がいることが最大の効果であると思うが、農園は手入れされており、耕作放棄地

に見られるような雑草の繁茂はないため、緑地として最高の環境であった。

<所感>

全国どこでも耕作放棄地が見られる。雑草が繁茂していて人間の背の高さよりも高いところも見られます。伊勢原市では土地所有者から耕作が難しくなったから活用してほしいとの要望が始まっております。農地所有者はできる・できないは関係なく相談をしていただきたいと思った。情報を共有することにより新しい展開が期待できるからである。

自分が食べるものにこだわりを持っている方はたくさんいます。家庭菜園をやってみたいが畑がないから断念しているかたがたくさんいるという株) アグリメディアの報告もあります。「市民農園」はただ単に圃場を整備して終わりという時代ではないかもしれない。その新たな1面を見た気がします。農地所有者にも自治体にも指定管理者にもメリットがある市民農園であってほしい。(文責：櫻井)

平成 30 年 10 月 25 日 午後 2 時から午後 4 時まで

<<公共施設再配置について>> 「神奈川県秦野市」

ご対応いただいた皆様

秦野市議会 議長	あそ 佳一 様
----------	---------

秦野市役所 政策部 公共施設マネジメント課長	志村 高史 様	議会事務局長	柏木秀治 様
---------------------------	---------	--------	--------

ほか議会事務局の皆様

#### 調査項目

<<公共施設再配置について>>

既に公共施設に詳しい方ならご存知であると思いますが、昭和 40 年代から 50 年代にかけて建設が集中した公共施設が建設から 40 年を経過しようとしています。近い将来老朽化対策費、施設更新費が必要となる中、扶助費などの義務的経費を中心に公共施設に配分することができる予算は少なくなっております。

昭和 40 年代の公共施設の建設集中以外にも、平成の初期のころの景気対策での公共事業の整備が行われたもの。そして平成の大合併で合併特例債の公共事業が行われております。

これらの公共施設を今後計画的に更新していきましようというのが基本的な考え方であり、対策として複合化・譲渡・廃止などの選択肢があります。公共施設を面積ベースで減らしていく方策になります。

これらを進めるにあたり現状を把握する方法として、「公共施設白書」の作成。そして白書をもとに「公共施設再配置計画」の策定と続きます。

以上の総論部分と、秦野市では「再配置計画」が完成し、第 1 期計画が実行されています。その各論のお話もありました。

各論として、学校体育館に地域施設を入れる複合化や、保健センターなどの公的機関に郵便局に入ってもらい賃貸料を得る施設の有効活用などの取り組みが 1 期 10 年の計画期間で計画されています。

またこの計画を市民の皆さんに周知する取組として、市の広報誌に「公共施設再配置計画」の概要を特集記事として掲載したり、「公共施設特集号」という新聞広告みたいなピラを作成し、広報誌に挟み込むという方法を採用されておりました。紙媒体に限ることなく、電子メールでの情報発信も行っております。「Eメンバー」を募集し、計画の策定経過を電子メールで送信しておりました。これは広報活動ではありますが、この「Eメンバー」は自分の意見を市役所に発信することができるという広聴機能も持っているということです。このような市民参加手法を採用して公共施設再配置計画を策定されました。

#### <所感>

平成 30 年度中に完成する岩倉市の「公共施設再配置計画」も各地の取り組み事例のいいところを取り入れ策定中であります。

やはり、まず総論部分が重要であります。「なぜ必要なのか」であります。「公共施設白書」がその役割を担っており、そして個別の実施計画ができてきます。

秦野市が行っていることで、岩倉市が行っていないだろうと思うことは、施設の有効活用ではないかと思いました。まず市役所の敷地の中にコンビニが建っています。コンビニの敷地使用料が入ってきます。そして保健センターの一角に「郵便局」が入っています。こちらにも賃貸料が入ってきます。このように公共施設で稼ぐという視点がないように思った。

大阪城公園も敷地を貸し出すことにより、財産収入を得ているという視点を持つことも必要である。この財産収入を積み立てて公共施設の整備費に充てていただくことが将来の負担を軽くするものであると考える。(文責＝櫻井)

平成 28 年 10 月 26 日 午前 10 時から正午まで

<<地元農家と連携した食堂運営について>> 「千葉県柏市」

ご対応いただいた皆様

一財) 柏市まちづくり公社 あけぼの山農業公園 所長	森山 恵一 様	経済産業部 農政課 副主幹	関本孝宏 様
-------------------------------	---------	------------------	--------

ほか議会事務局の皆様

<現地視察>

株式会社 柏染谷農場 代表取締役社長	染谷 茂 様	株) アグリメディア	白石 様
-----------------------	--------	------------	------

調査項目

<<地元農家と連携した食堂運営について>>

人口が 42 万人いる柏市に農業公園があります。この農業公園は「農業研修センター」であったものが現在、農業公園になっています。「農業公園地区」と「体験農園地区」と「あけぼの山公園」の 3 つの区画から構成されています。この中で食堂事業を行っていたが、東日本大震災を契機に来園者が減少し、赤字経営になっていました。柏市はこの食堂事業を株)アグリメディアに業務委託することにした。実績として、食堂事業は売り上げが増加しているという報告がありました。増加要因として、アグリメディアが展開している食堂の横に畑を設け、自分で収穫した野菜をそのまま食堂(バーベキュー場)で食べることができる方式に転換したからであると推測している。また株式会社独自の広報の効果もあったとのこと。

次に、農家の皆さんが設立した産直センターと農家レストランについてであります。

地産地消の展開を図り、消費者に農業に対する理解を深めてもらうとともに、都市の中で共生する農業をめざし、農家所得の向上と柏市の活性化を目指す目的のもと平成 16 年に農家 14 人で産直センターを立ち上げられました。当初は赤字経営でありましたが、来店者が平成 19 年には 100 万人、平成 21 年には 200 万人になり地元での知名度も向上し、売り上げも増加してきました。

そして平成 28 年 6 月に産直センターの横に「農家レストラン」をオープン。お昼 12 時間前には行列ができるお店になっている。

<現地視察>

あけぼの山農業公園のバーベキュー場をアグリメディアの社員の方のご案内で視察。

産直センターと農家レストランについても店舗視察、そして農家レストランで昼食をとりました。

あけぼの山は視察日が平日であったため、バーベキュー場に来店者はいなかったが畑には収穫間近の野菜が栽培されていたので、週末の繁忙が予見されました。

産直センターと農家レストランは設立時の農業者のリーダーであった染谷さんに説明を

いただきました。産直センターも平日昼間ということもあり、来店者はまばらであったが、店頭の商品ぞろえや駐車場の大きさや、事務所が産直センターの隣にプレハブで建設されていたのを見れば、週末は繁盛していると推察されました。

<所感>

東京の近郊で農地がある自治体という意味で、名古屋の近くの自治体である岩倉市と地理的状況は似ているといえる。

伊勢原市と同じ会社である、株) アグリメディアに農業公園の食堂運営を委託している。農業公園を持つことは岩倉市にはできないが、畑で収穫してすぐその場でバーベキューができる環境というのは食育政策の実践である。視察項目でも記載したが、来場者が増え売り上げが上がっているのは株式会社の広報戦略のおかげであると思った。

また農家産直とレストランは立ち上がられた農家の皆さんの思いが現在へと伝わっている。だから黒字経営という実績に表れている。またレストランも実際食べてみたが、月並みな表現だが美味しくいただけた。こちらも視察項目でも書いたが 12 時前には行列ができていた。座席数が足りないのではなく、来店者が多いのである。

2つのケースを拝見したが、成功しているケースである。農業は高齢者が担っているケースが多く失敗事例もあるはずである。失敗事例は表に出てこないが、失敗から学ぶこともたくさんあるのではないかと思う視察であった。(文責：櫻井)